



## 高齢者の関節痛は リウマチ性多発筋痛症の可能性

リウマチ性多発筋痛症とは、50歳以上の中高年に発病し、70～80歳にピークがあり、男女比は1:2～3と女性に多い病気です。膠原病類似疾患で、はっきりした病因はわかっていません。

発病が比較的急激で、**発**肉や関節の症状が主で、

発熱、食欲不振、体重減少、

全身倦怠感、抑うつ症状などもみられます。主には両側の肩、首、臀部、腰部、大腿などに痛みやこわばりがでます。一般に筋力の低下はありませんが、筋肉の強いこわばりと痛みで手足が固まって力が入りにくく、手足を動かせないと自覚することがあります。これらの症状は朝の起床時が最も強く、午後には多少軽快することが特徴です。また、側頭動脈炎を合併すると側頭部を中心とした頭痛、動脈の拍動、触れると痛みを伴ったり、視力の低下、食物を食べていると顎が痛くなったり、噛めなくなるような症状がみられます。

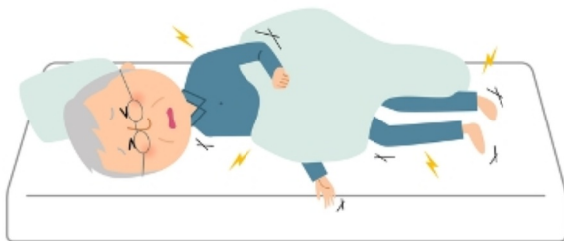


この病気の症状は類似の様々な他の病気にも見られること、検査で特にこの病気に特別なものがないことから、診断は容易ではありません。同様の症状や炎症所見を呈する類似の病気を除外し、炎症所見の存在を示すCRPの上昇、時には血中MMP-3の上昇などを参考にし診断が行われます。



治療には、**治**ステロイド薬が劇的な効果を示します。少量から中等量で効果が実感でき、多くの場合1～2週間以内に痛みが軽快します。しかし、短期間で効果があっても、一定期間の初期服用量を継続し、急性期の炎症を完全に鎮静化する必要があり、症状や臨床検査の炎症所見の推移をみて、ステロイド薬が減量されます。

早期の減量は病気の再発を起こしやすいとされており、減量は慎重に行うのが一般的です。最終的に早くて約1年でステロイド薬を中止できる人もいますが、症状の再発により少量のステロイド薬を内服し続ける必要のある方が多く、ステロイド薬服用で劇的効果があるからと言って、簡単に減量したり中止してしまうと再び病気が悪くなりますので、必ず医師の指示通りの服用をすることが大切です。



院長ニフム  
コロナ禍のオリンピックが始まりました。開会式は日本のエンターテイメントを世界中に披露できる絶好のチャンスのはずが、華美なものを控えた落ち着いたものになりました。決して日本に演出力が無かったわけでは無いはずですが、復興五輪を掲げ、おもてなしを打ち出し、都市型オリンピックのモデルケースになるはずだったものが、三密回避と頻回な検査、無観客や競技以外のイベントの中止、地域の経済効果もなく、ネガティブなことから、せつかくの地の利を生かして地元の応援をたくさんもらえるはずだったのに。マイナーな種目が注目される絶好の機会だったのに。こんな中でも競技ができる幸せをかみしめ、あり過ぎる声援のプレッシャーがない分落ち着いてできると言わしめてしまい、必ずや開催したことを評価してもらえるだろう結果を求めて謙虚に臨むアスリート達。最後には、関係者含めて皆が讃えあえるオリンピックであることを願わずにはいられません。